

2020（令和2）年3月31日  
社会福祉法人角田共育ち会  
理事長 藤崎 隆

## 2020（令和2）年度事業計画書

### 1. 事業計画にあたって

幼児教育・保育の無償化の開始、角田市保育施設等統廃合基本計画の実施、世界的なコロナウイルス蔓延をきっかけとした感染対策の実施など諸情勢の変化に対応しつつ、なかよしこどもえんが目指す子どもの姿である、自分の要求を出し、なかまと育ち合う子ども、心と体のバランスがとれて発達する子ども、以上を実現するために児童福祉法等に基づいた取り組みを進めていきます。

### 2. 事業経営

#### (1) 認可定員の変更

2020年度の認可定員（施設の定員）の変更申請を行い、宮城県より認可されました。新たな認可定員は下記のとおりです。0歳児で3名増やしました。

単位:名	2019年度				2020年度			
	1号	2号	3号	計	1号	2号	3号	計
0歳児			6	6			9	9
1歳児			12	12			12	12
2歳児			12	12			12	12
3歳児	5	18		23	5	18		23
4歳児	5	18		23	5	18		23
5歳児	5	18		23	5	18		23
計	15	54	30	99	15	54	33	102

#### (2) 教育及び保育の内容に関する全体的な計画

別紙を参照してください。

#### (3) 年間行事予定

マークは保護者参加の行事 避難訓練、身体測定、誕生会、お弁当の日は毎月実施します。

月	行事名	備考
2020年4月	2日(木)入園と進級を祝う会	
5月	7日(木)園の「こどもの日」 21日(木)さつま芋苗植え 日( )内科健診 27日(水)未満児保育懇談会 30日(土)田植え(らいおん・きりん・ぞう)	
6月	日( )歯磨き指導(きりん、ぞう) 日( )交通安全教室(らいおん、きりん、ぞう) 18日(木)以上児保育懇談会 日( )歯科検診	
7月	1日(水)プール開き 7日(火)七夕祭り 11日、12日(土、日)キャンプ(きりん、ぞうお泊り保育。)	
8月	22日(土)なかよし祭り	
9月	10日(木)遠足	
10月	芋ほり 内科健診 10日(土)運動会	角田小学校体育館
11月	4日(水)未満児保育懇談会 13日(金)保育懇談会(らいおん組) 19日(木)保育懇談会(きりん組) ( )歯科検診	親子クッキング
12月	10日(木)保育懇談会(ぞう組) 18日(金)クリスマス会	親子クッキング
2021年1月	9日(土)もちつき大会 5歳児小学校連携事業の実施	
2月	3日(水)節分 18日(木)未満児保育懇談会	市民センター

	24日(水)以上児保育懇談会	市民センター
3月	3日(水)ひな祭り 4日(木)お別れ遠足 20日(土)卒園を祝う会	

#### (4) 食育計画

食育目標 『一人ひとりの子どもの食を営む力を育み豊かな心と体を育てる』

健康な生活の基本としての食を営む力の育成に向け「食」の大切さを見直し、「食」を通して、心と体の健康な子どもを育成することを目標とします。年齢に沿った様々な活動を通し、社会性を養い、豊かな心、健康なからだを育てていきます。

給食コンサルタントの菅浪美智子先生の指導を引き続き受けます。

手作りおやつや親子クッキングに取り組みます。行事では田植え、芋ほり、餅つき大会など食育に関する行事に取り組みます。

#### (5) 施設利用の推進

4月1日時点の施設利用児童数は94名です。利用定員に対して不足人数は1名です。

	利用定員				児童数			
	1号	2号	3号	計	1号	2号	3号	計
0歳児			9	9			9	9
1歳児			12	12			12	12
2歳児			12	12			12	12
3歳児	5	15		20	3	18		21
4歳児	5	16		21	7	14		21
5歳児	5	16		21	6	13		19
計	15	47	33	95	16	45	33	94

保護者の就労状態の変化にも柔軟に対応できる認定こども園のメリットを広めて受け入れ可能な4,5歳児の利用を促進します。

#### (6) 安全管理と事故防止

お散歩コース安全管理マニュアルに沿った屋外活動を進めます。

乳幼児の午睡チェックを5分間隔で実施します。

避難訓練を毎月1回実施します。

安全点検チェックリストに基づく施設の点検を実施します。

施設出入口前の交通整理を毎朝実施します。

交通安全教室に取り組みます。

(7) 園児の健康管理

内科健診及び歯科検診を実施します。

身体測定(月1回)、歯磨き指導(年1回)を行います。

(8) 学童・放課後児童クラブ事業の準備

2020年度事業開始を目指して角田市と協議を進めましたが、既存事業との調整が必要なことから2021年度以降の研究課題とします。

3. 職員の処遇

(1) 職員体制

新卒職員2名を採用しました。指導育成に取り組みます。

職名	職員数
園長	常勤1名
副園長	常勤1名
主幹保育教諭	常勤1名
保育教諭	常勤12名 非常勤4名
栄養士	常勤1名
調理員	非常勤4名
事務長	常勤1名
事務員	非常勤1名
内科医、歯科医、薬剤師	嘱託各1名

(2) 職員会議

職員会議(月1回)

以上児会議、未満児会議(月2回)

給食会議(月1回)

(3) 職員の教育研修

8月に福島県郡山で開催される全国合研(2泊3日)に数名を派遣します。

11月の宮城合研に保育教諭と栄養士を参加させます。

仙南保育所連合会の研修に参加します。

#### (4) 退職金制度・福利厚生充実

常勤職員の退職金制度として、引き続き福祉医療機構退職共済制度及び宮城県民間社会福祉振興会退職共済制度に加入します。また非常勤(パート)職員についても引き続き中小企業退職金共済制度(中退共)に加入します。

福利厚生の一環として年末の職場忘年会の費用補助を行います。

健康診断(年1回)と検便(毎月)を行います。

#### 4. その他

##### (1) その他事業

一時預かり事業、延長保育事業を継続します。

子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業である子育て支援拠点事業「すくすく広場」を年9回ほど開催します。

##### (2) 危機対策

保護者へのメッセージ斉配信システム「おがログ」を導入します。導入済みの登降園管理システム「おがーるシステム」と連携し保護者はスマホアプリで園からの緊急メッセージを受信できます。災害時や突発的な事象の際に活用します。

災害備蓄食料を確保します。またセコムからリースでAEDの設置をしています。

備蓄食料の目安:(全児童数+全職員数)×3食×(1日~3日)分

##### (3) 保護者に向けて

保護者と保育教諭の会「なかよしどんぐり会」の運営を進めます。

##### (4) 購入予定備品、施設改善

給食用食器の補充

##### (5) その他

地域社会との連携として行政区総会等に参加します。

苦情対応の第三者委員として地域の民生委員の方に委嘱します。

サービスの質の向上に向けて宮城県が進める「福祉サービス第三者評価」受審の準備を進めます。

2019(令和元)年度に引き続き中学、高校、大学、専門学校の研修、実習の受け入れを行います。

# なかよしこどもえん 2020 (令和2)年度教育及び保育の内容に関する全体的な計画

事業の目的	保育の公共性や公益性を自覚し地域の子育て支援事業の一翼を担い、これまでなかよし保育園の門をくぐった子どもたちやこれから出会う子どもたちの育ちを見守り続けます。そして将来的にも安定的な保育事業を展開していきます。			<b>子ども の教育 及び保育目標</b>	0歳児	①よく眠りよく食べて機嫌よく遊べる生活リズムを作る。②さまざまな要求を引き出して、言語の獲得につなげる。③安定した歩行に向けて、その基礎になる力をつける。大人との安定した人間関係を作り、共感関係を育てる。
教育・保育理念	私たちは就学前のすべての子どもたちがなかまとの遊びを中心とした生活の中で学び、ともに育つ施設となることを目指します。そして子どもを見守る大人たちも子どもの育ちに驚き、共感し共に育ちあう関係を望みます。				1歳児	①ぐっすり眠ってしっかり食べて機嫌よくたっぷり遊ぶという生活リズムの確立。②自分でという意欲を育て自分でやろうとする力を徐々に身につけていく。③自分の気持ちを友達や大人に言葉で伝え、かわりあえるようにする、共感しあう中で豊かな人間関係を築く。
教育・保育方針	安全・安心を第一に、子どもが生きている今を生きてのびのびと生活できるように、より楽しく、よりおもしろく生活し子ども自身が生きる力を学び取る環境をみんなで作っていきます。				2歳児	①基本的な生活習慣の自立。ゆっくり援助しながら意欲を引き出していく。②一ひとりひとりの子どもが安心して自分の言いたいことややりたい事を表現できるように心がける...③遊びが豊かになってくる時期であり保育者が中心になって子ども同士をつながりながら遊びを広げていく。自己主張じぶんでいやなど強く表れる時期であるが子ども自身の主張を大切に受け止めながら自分で納得して気持ちを転換できるように保育を進める。生活体験を豊かにして乳幼児期への転換期を幅を持たせながらゆっくり進める。
教育・保育目標	子どもは、なかまと共に遊びを中心とした生活の中で育ちます。土や水・風を感じながら遊び、人や物に働きかけて学びます。子どもと共にこの乳幼児期をより楽しく、よりおもしろい生活で包み込んでいきます。				3歳児	①楽しいことをみんなで共感したり、一緒に遊ぶ喜びを感じられるようにする。②自分の身の回りのことは自分でできるようにする。③遊びの中で全身をたっぷり動かす。自分の想いをいっぱい出したり友達の思いにも気づいていけるようにする。
					4歳児	①友達と一緒に生活したり遊ぶ楽しさを知る中で、自分の想いを相手に伝え、相手の想いも聞けるようにする。②何事にも「やってみよう」と興味を持ちチャレンジしようとする。
				5歳児	①新しい課題に挑戦する意欲と粘り強くやろうとする力を持つ。②仲間と遊ぶことを楽しむなかでその遊びをより豊かに発展させていくことができる。③感じたこと、想像したことを豊かに表現できる。生活や遊びの中で仲間と共に考え、協力しあい行動できる。	

1号認定：教育標準時間 8:30～13:30 預かり保育 { 7:30～8:30  
13:30～19:00

2・3号認定；保育標準時間（短時間） 7:30（8:30）～18:30（16:30）延長保育 { 7:00～7:30（8:30）  
18:30（16:30）～19:00

<b>特 に 配 慮 す べ き 事 項</b>	<b>【健康支援】</b> 健康及び発育発達状態の定期的・継続的把握 年2回の歯科による健康診断（内科・歯科） 登園児及び保育中の状態観察、また異常がみられた時の適切な対応 年1回の職員健康診断及び毎月の検便（栄養士・調理員・調乳担当者）	<b>【環境・安全・衛生管理】</b> 施設内外の設備、用具などの清掃及び消毒 施設内外の設備、用具などの安全管理及び自主点検 子ども及び職員の清潔保持 インフルエンザへの対応 毎月の避難訓練（火災、地震、不審者対応）の実施 被災時における対応と備蓄 消火訓練の実施	<b>【給食目標】</b> 安心・安全な地元産の旬の食材を取り入れ食べる楽しさを味わう 五感を使って感じ、しっかり食べることで体が元気になる <b>【食育の推進】</b> 栄養バランスを考え自園給食の提供 全園児へ炊き立てご飯の提供 行事食の提供 菜園作りの実施 クッキングの実施	<b>【子育ての支援】</b> 入園のしおり・パンフレットの配布 地域子育て支援の種（育児相談等） 保護者との連携協力 実習生及び中学生保育体験の受け入れ 給食試食会などを通じた食育への理解 危機管理体制の揭示 その他緊急を要する情報の通知
--	---	--	---	---

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>主な行事</b>	入園と進級を祝う会	歯科健診の日 さくら園児保護者懇談会 満植え	交通安全教室 歯磨き指導 歯科健診	七夕まつり 七人七草 年長体験	なか夏祭り よしも祭り	親子遠足	内科健診 運動会	歯科健診 園児保護者懇談会 園児保護者懇談会 園児保護者懇談会 園児保護者懇談会	ぞくり組 うぐい組 スマスマ会 スマスマ会 スマスマ会	もちつき大会	節分 満植会 児保育懇談会	おひなまつり お別れ遠足 園児を祝う会

	年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
養護	生命の保持	* 基本的・日常生活活動の基礎を作る。 * 24時間を見通した生活リズムを確立する。	* 食事や睡眠、排せつ、衣服の着脱などの基本的な生活活動を『じぶんから』『じぶんでしよう』とする意欲を育てる * 基本的な生活習慣の基礎を作る	* 一人でやるうとすることを大切にしながら大人と一緒にやったり、大人に見守られてやってみようとしていたり、見通しを持って一人でやってみる。	* じぶんの身の回りのことは自分でできるようになるとういう基本的な生活習慣の確立。	* じぶんの事はじぶんでしようという基本的な生活習慣の確立。	* 健康的な生活に必要な習慣の意味や大切さを理解して見通しをもって自主的に行動できる。
	情緒	* こどもえんで生活する子どもたちひとりひとりが安心できる場所になるようにする。	* 子どもたちが少し先の見通しを持てる生活を作っていく。『ゆったりした雰囲気』が大切	* 自立への強い思いやこだわりはあるものの、あくまでも「依存しながら自立する」存在。安心して依存できる大人がそばにいて自立への一歩を踏み出す。	* 子どもから信頼され子どもが安心できる基盤になる。 * 保育者と子どもとの良好な関係をつくる。 * ひとりひとりの子どもが直面している段差をどのようにとらえどのようにこえようとしているのか、想像し続けることを大切にす。	* 集団の陰で揺れている子どもはいないか、目を配りながら葛藤する子どもの心に寄り添うことが大切。 * できる自分、カッコいい自分をほめてもらうだけでなく、情けない自分も丸ごと受け止められる経験が大切。	* 集団に責任を持ち、仲間と協同する力が育つ時期に子どもの意見を最大限尊重する。
教育 及び 保育 領域	健康	* 薄着・裸足で過ごす。 * 年間を通して水分補給をする。 * 日差しが強いときは帽子をかぶる					* 健康に必要な習慣の意味がわかり、いつでもどこでもできる。
	【あそび】	* 自然物や身近な用具、おもちゃなどの素材に興味や関心を持ち、すすんで遊んだり試したりする。 * 好きな遊びやおもちゃを見つけて楽しむ。 * 2指で小さい物をつまむ。 * 高く積み上げたり、もの出し入れを楽しむ。 * 二足歩行が出来たり、場に応じた体の動きをしようとする。	* いろんなつもりが楽しい時期。イメージでつながる体験を大事にたっぷり楽しい遊びを繰り返していく。 * 繰り返し遊ぶなかで自分の遊びを広げる。 * まてまて、かくれんぼ、手遊び、ごっこ遊びを楽しむ。	* 水・砂・土遊び・散歩をたくさん取り入れ充分に楽しむ。 * みたて・つもりの世界でたくさん遊び、イメージを膨らませていく。 * リズムに合わせて歩いたり、体を動かしたりする。	* 保育者やまわりにいる友達の存在に安心し一人でも友達とでも夢中になって遊ぶことができる。 「体も心もほぐす愛の鬼ごっこ」「泥だんご作り」など  * 基本動作を迫及する中で「できる」という達成感を積み重ねていく。	* 楽しい遊びをやりつくせるようにする。 * みんながつながる楽しさを味わう集団遊び(氷鬼・どろけいなど) * わらべうたでつながり心地よい時間を共有する。	* ワクワクドキドキするような体験を大切にす。 * 自分たちで遊びを広げたり、作ったり発展させて遊べる。 * 自分たちで簡単なルールを作って遊ぶ。
	【人間関係】	* まてまて遊び・いないいないばあ遊びをたっぷり楽しむ * 保育士が仲立ちとなりながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを知る。	* 一緒に生活する仲間と『気分』を共有し、イメージを共有しながら遊ぶ事を何よりも楽しく感じる。『みんなと一緒に』が楽しい時期。	* 自分を尊重してほしい」という思いも強くなり、友達同士での自我と自我のぶつかり合いによるトラブルが見られるようになる。 * 友達とつながり合いを求めてそこに喜びや満足、楽しさや心地よさを感じるとともに自分や友達のさまざまな姿に出会い悩むがそうした体験が心の発達を後押ししてくれる。	* 楽しい遊びや生活を作りながら友達関係を大切にすしていく。 * 友達とかかわりあう中で、みんなで作る楽しさを体験させる。 * 友達とのぶつかりも大切にしお互いの気持ちを言葉で伝え合えるように、また納得できるような解決を、ひとつひとつしていく。	* 対等で安心できる仲間関係をつくる。 * 『多様な価値観』に触れる経験を通して、多様性を認め合う人間関係を意識的に育てていく。 * 子どもたちの要求に可能な限りこたえる。	* 友達の想いをみんなでお考えながら、「子どもたちが決める」ことを大切にす。 * ひとりひとりの声を大事にする。 * みんなで心から『楽しいな』と思える体験こそが、子どもを変えていく力になる。
	【環境】	* 好きな時に好きなおもちゃを自分で手に取り、遊べる環境を設定する。(子どもたちの期待・意欲を大事に育てる)「 * 「寝る空間」「遊ぶ空間」「食べる空間」を分け子どもたちが心地よく過ごせる環境を整える。	* 子どもたちの育ちに合わせ、布団の敷き方を変えてみたり、昼寝起きに楽しい活動を用意して、子どもたちに見通しを持たせるようにしてみたり、と子どもたちが自分で気持ちを切り替えられるような働き方や環境作りを工夫する。	* 遊びに必要な物やスペースを用意し、友達と関われる場面や機会を多くつくる。 * 安心できると同時に好奇心や探求心をかきたてられるような環境を作っていく事が大切。	* 遊びの興味が広がる時期なので多様な遊びを設定する。 * やりたいたいと思うことが充分できるように時間的な余裕を持つ時間配分にする。	* 気持ちよく遊びに関われるように、保育室や遊具を整理する。 * こどもが『こうしたい』という思いにあうような素材、材料を提示し作れるような環境を整えておく。	* 様々な材料を準備し、子どもが自由に遊べる環境をつくる。 * 自然に関する図鑑、絵本などを準備し興味を持ったことを積極的に調べられるようにする。
	【言語】	* 友達の名前がわかる。 * 自分の要求を動作で表そうとする。	* イヤ、ほしい、～したいなどの自分の気持ちを友達や大人に言葉で伝えかかわりあえるようにする。	* 一語文から二語文、三語文と言葉が爆発的に増加し上手に使いこなせるようになる。 * 言語を獲得しながら、自分の思いを大人や友達に伝えようとする。	* 著しく、言葉が発達する時期。シャワめ ように色々な言葉を楽しく聞ける環境をつくる。 * 絵本の読み聞かをたっぷりする。 * 子供から言葉を引き出しやり取りを楽しむ。	* 相手の言葉に耳を傾ける中で、自分の本当の気持ちを確認し、改めて意見をわかりやすく表現できるようにする。	* 友達の気持ちを読み取り言語化の援助をしようとする。
【表現】	* 子どもも大人も「おもしろい」「楽しい」「心地よい」と感じられるいろいろな絵本との出会いを大切にす。 * 感触あそびなど、『おもしろそう』『触ってみようかな』『やってみようかな』と気持ちが動いたり意欲や期待感をいっぱいふくらませる。 * 描くことが生活の中に当たり前にある心がいっぱい動く環境をつくることで豊かな感性を育てる。	* 砂・泥・遊びをダイナミックに取り組む。 * 色画用紙とマジックのなぐり描きをする。 * 小麦粉粘土をしたり絵の具でぬたくりをする。 * リズム遊びや手遊びをする。 * 感情表現が豊かになり満足した気持ちを土台におどけたり、ふざけたりするようになる。 「まねをしあって戯れる」という意味で『ふざける』事は1歳児の大事な遊びの力になる。	* 周囲の自然や事物への探索や探求を楽しみ、絵本や紙芝居、歌など、様々な文化との出会いを楽しむようになる。みたて・つもりなどごっこの世界を作り出し仲間と一緒に楽しむようになる。	* 異なった表現をするひとりひとりを大切にす。 * 現実と虚構のどちらの世界も豊かにふくらませる。 『保育者が何かになりきって虚構の世界をつくり、子どもは自分とは違う何かになりきるなどなりきり遊びをしかける。	* ただ、モノを加工するだけでなく、新たなモノを自分の頭でイメージして作っていくことができるようになる。(紙工作など)  * どの子も自分の想いを表現できるような雰囲気作りを大切にす。	* 経験したことを絵に描いて筋道を立てて表現できる。 * 道具を使いこなせる * 作って遊ぶ楽しさを知り、それを使ってルールを守って遊ぶ。 * みんなで声を合わせて歌うことが楽しいと思える。 * 見たことを表現して楽しく遊ぼうとする。	